

## 2. 教育学部

I	教育学部の教育目的と特徴	2-2
II	分析項目ごとの水準の判断	2-3
	分析項目 I 教育の実施体制	2-3
	分析項目 II 教育内容	2-5
	分析項目 III 教育方法	2-7
	分析項目 IV 学業の成果	2-8
	分析項目 V 進路・就職の状況	2-9
III	質の向上度の判断	2-11

## I 教育学部の教育目的と特徴

### 教育目的

教育学部の教育目的は、「教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野等で活躍する有為な人材を養成する」ことにある（教育学部規程第2条）。

学校教育教員養成課程の到達目標は、教育の重要な場としての役割を持つ学校（幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校）に、幅広い視野と行動力を持った教師を送り出すことにある。養護教諭養成課程の目標は、教育の場において、子どもたちの健康づくりを通して成長を支援する養護教諭を育てることにある。

### 教育の特徴

平成18年度に、全国的な教員需要の高まりや教員養成教育の実績を踏まえて、教員養成に特化した学部への転換を図る改革を実施し、総合教育課程を廃止し、学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程の2課程に改組し新たなスタートを切った。

前述の教育目的を踏まえて、学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程の課程で、基礎学力とともに、教育の場で活躍したいという意欲や姿勢と、これまでの学習や活動体験に基づいた専門分野への関心と理解を持った学生を、平成18年度入試からAO入試並びに一般選抜前期日程で選抜を行っている。

教育の特徴としては、平成18年度の学部改組を機会に、実践的指導力を身につけた教員を養成するために、教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムを開発して実施している。教員養成コア・カリキュラムでは、教育実践力を①学習指導力、②生徒指導力、③コーディネート力、④マネジメント力に分類して、この4つの力をバランスよく身に付けた反省的で創造的な教員を岡山大学教育学部の目指す教師像として、教員養成を行っている。

### 想定する関係者とその期待

平成18年中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、各課程認定大学は、自らが養成する教員像を明確に示して、その実現に向けて体系的・計画的にカリキュラムを編成し、大学全体として組織的な指導体制を確立していくことが重要と指摘されている。教職課程の履修を通じて、学生が教職への理解を深め、専門的な知識・技能を自己の中で統合し、教員としての必要な資質能力の全体を確実に形成できるよう充実を図ることが求められている。

岡山大学教育学部と岡山県教育委員会とは平成12年度より連携協力会議を設置し、教員養成に関する事項について、定期的に率直な意見交換と各種の取り組みを行い、相互の協力と信頼を培っている。

## II 分析項目ごとの水準の判断

## 分析項目 I 教育の実施体制

## (1) 観点ごとの分析

## 観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

平成11年度の学部改組後、入学定員280人（学校教育教員養成課程170人、養護教諭養成課程30人、総合教育課程80人）であったが、平成18年度学部改組により、総合教育課程を廃止し、入学定員280人（学校教育教員養成課程250人、養護教諭養成課程30人）の全てを教員養成課程に特化した。その他、大学付置の養護教諭特別別科の教育も担当している。

(資料Ⅱ-1-1)

資料Ⅱ-1-1：教育学部等学生定員及び現況

平成19年5月1日現在

課程	専攻・コース	入学定員	19	18	17	16	15以前	計
学校教育教員養成課程	小学校教育コース	140	149	157				306
	中学校教育コース	80	92	99				191
	障害児教育コース	15	15	17				32
	幼児教育コース	15	15	17				32
	小学校教育専攻				104	93	11	208
	中学校教育専攻				63	60	16	139
	障害児教育専攻				6	8		14
	幼児教育専攻				13	12		25
養護教諭養成課程		30	31	34	33	32	2	132
総合教育課程					90	85	10	185
計		280	302	324	309	290	39	1264

平成19年5月1日現在

区分	入学定員	19	18
養護教諭特別別科	40	38	

(出典：教務学生係資料)

平成19年度の教育学部教員組織一覧は、資料Ⅱ-1-2（教育学部教員組織一覧）のとおりであり、学部教育に十分な人材を確保している。

資料Ⅱ-1-2：教育学部教員組織一覧

平成19年12月1日現在

所属	教授	准教授	講師	助教	計	備考
教育学部	67	43	6	0	116	大学設置基準における専任教員数 16名以上 そのうち教授8名以上
教育学研究科	3	2	0	0	5	
計	70	45	6	0	121	

(出典：庶務係資料)

<b>観点 教育内容, 教育方法の改善に向けて取り組む体制</b>
-----------------------------------

(観点に係る状況)

平成16年7月将来構想委員会の中に「カリキュラム検討ワーキンググループ」を設置して、各課程が養成する人材の具体像と教員養成コア・カリキュラム案の検討を開始し、平成18年度入学者から教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムを導入した。さらに、平成18年7月中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申で提言された「教職実践演習」導入に応え、教員養成コア・カリキュラムをさらに充実させるため、平成18年10月「学部教育プロジェクト委員会」を立ち上げ、平成21年度に新教員養成コア・カリキュラムにバージョンアップするために検討を進めている。これらは、その時々課題に対応して設置した臨時の委員会等の活動である。

恒常的な組織体制としては、教務に関する執行機関として「教務委員会」が日常業務を担うとともに、「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申において設置が求められた教員養成カリキュラム委員会に相当する組織として、平成18年度「教員養成カリキュラム検討機構」を設置し、教育学部・教育学研究科の教職課程管理を担うこととした。

F D活動については、平成18年9月全学F D研修会「桃太郎フォーラム」で、教育学部及び教育学研究科における学生指導のあり方や地域との連携状況について報告した。11月定例教授会において、教育学部におけるピアレビューの実施体制を検討した。平成19年3月にはF D研修会を開催し、全学及び全国的なF D活動の状況についての理解を深め、今後のF D活動の在り方について検討した。3月定例教授会で、それまで教務委員会内の一部門で担っていたF D活動を専門に行う「教育学部・教育学研究科F D委員会」を設置した。

平成19年度には、F D委員会が6月から7月にかけて3回の学部授業のピアレビューを実施し、8月の学部F D委員会で、教育学部におけるピアレビューの実施計画を検討した。9月には全学のF D研修会においてG P A制度に関する報告をし、10月の学部F D委員会で、平成20年度から本学において導入されるG P A制度への対応を検討した。12月には平成19年度後期分の学部公開授業と、学部授業ピアレビューを行った。

学生による授業評価アンケートは、法人化前からすべての開講科目において実施しており、その結果は当該授業担当者並びに責任者に送付するとともに、教養教育科目グループ・専門教育グループごとに学生に公表している。教育学部専門科目の授業評価アンケート結果(資料Ⅱ-1-3)は、5段階評価の4点台で推移している。シラバスの改善は、法人化以前の平成12年に「教育学部成績評価基準」を作成し実施している。シラバスの内容は、概要、学習目標、授業計画、成績評価、評価基準等に加え研究活動との関連についての記述を行っている。成績評価は授業の教育目標に対する学習者の到達度を見るものであり、授業の形態に応じて適切な評価方法を取ることで、教育学部の統一的評価基準によって行っている。平成16年度からは、シラバスをウェブサイト公開している。

資料Ⅱ-1-3：教育学部専門科目の授業評価アンケート結果

	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全体評価	4.1±0.9	4.1±0.9	4.1±0.9	4.1±0.8	4.0±0.9	4.1±0.8
教員の熱意・意欲	4.3±0.8	4.3±0.8	4.2±0.8	4.3±0.8	4.2±0.8	4.3±0.8
学生の積極性	3.9±0.9	4.0±0.9	4.0±0.9	4.0±0.9	4.0±0.9	4.1±0.9
回答率	64.4%	60.5%	79.6%	77.3%	80.0%	79.8%

(出典：教育開発センター資料)

さらに先進的教育実施体制として、平成18年度文部科学省資質の高い教員養成GPに採択された「大学コンソーシアムによる幼稚園教員の養成」事業で、基幹大学として県内の幼稚園教員養成大学コンソーシアム（地域大学間連携機構）を組み、構成大学の教員がFD活動に連携して取り組んだ。

## （２）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準を大きく上回る。

（判断理由）

教員組織は、平成19年12月現在で121人の教員を配置しており十分な人材を確保している。

平成18年度教員養成に特化した学部改組に併せた岡山大学教員養成コア・カリキュラムの導入や、平成18年7月中央教育審議会答申に対応して、「学部教育プロジェクト委員会」等を立ち上げた。また平成18年度より「教員養成カリキュラム検討機構」を設置し教職課程管理を担い、恒常的FD活動については「教育学部・教育学研究科FD委員会」を設置して積極的に取り組んでいる。その他学生による授業評価アンケートの活用並びにシラバスの改善を行い、教育学部専門科目の授業評価アンケート結果は、高いレベルで推移している。さらに教員養成GPに採択された「大学コンソーシアムによる幼稚園教員の養成」事業で、地域大学間連携機構の構成大学教員と連携したFD活動に、先進的に取り組んでいる。

## 分析項目Ⅱ 教育内容

### （１）観点ごとの分析

#### 観点 教育課程の編成

（観点到に係る状況）

平成18年度学部改組を機に、実践的指導力を身につけた教員を養成するために、教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムを開発し、今日の教員に求められる力量を、①学習指導力、②生徒指導力、③コーディネート力、④マネジメント力の4つの力に分類して「教育実践力」として設定している。この4つの力の育成を、大学での授業と学校教育現場での実践を有機的に関連づけて展開するために、カリキュラムの軸に1年次から4年次にわたる教育現場での体験・実習活動を位置付け、それらによって教育現場の求める実践的指導力を備えた教員を養成している。また、学校現場や他の機関（博物館、福祉施設等）との連携による教育実践力の育成を意図した「プロジェクト科目」を新たに設け、具体的なプログラムの企画・立案から実施、評価までを体験させるとともに、4年次後期に学校での長期にわたる実践的経験を積む「学校教員インターンシップ」を導入している。

コア・カリキュラムでは、4学年8セメスターを、①教職への意欲向上期、②教育実践理解期、③基礎的教育実践力養成期、④発展的教育実践力養成期、⑤採用前研修期の5期に分けて、各期のねらいを明確化し、標準的履修モデルを示している。（資料Ⅱ-2-1）

## 資料Ⅱ－２－１：教員養成コア・カリキュラムにおける各期のねらい

期（セメスター）	ねらい
教職への意欲向上期（１）	1年生を教育実践の世界に誘い、教職に対する夢と希望をふくらませる。
教育実践理解期（２～３）	教育実践の諸構成要素及び実践の事実に関する理解を深め、教育実践観を拡張する。
基礎的教育実践力養成期（４～５）	教育実践に必要な実践的指導力を身につけ、多様な教育実践を経験する中でそれを高める。
発展的教育実践力養成期（６～７）	教育実践をめぐる新しい課題について理解するとともに、いつでもどこでも発揮できる真の教育実践力を身につける。
採用前研修期（８）	教育実践を研究する力量および即戦力としての実践的指導力を高める。

(出典：教育学部ウェブサイト)

**観点 学生や社会からの要請への対応**

(観点に係る状況)

第４回学生生活実態調査（平成19年度実施）による学生（1,178人）の授業への要望では、第１位が将来役に立つような内容の授業32%、第２位が学生による授業評価の授業への反映15%、第３位が資格試験等の受験指導14%であった。

第１位の将来役に立つような内容の授業については、前述したように、教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムを開発して取り組んでいる。第２位の学生による授業評価結果の授業への反映は、授業担当教員の個別の取組や、評点3.0以下の場合の責任者による個別指導で対応している。第３位の資格試験等の受験指導については、①平成15年度に教員を志望する学生のための支援を行うことを目的とする「教職相談室」を設置し、専任の職員が各県の教員採用情報提供、個別相談、集団面接・討論の指導、書類の書き方等細かな指導を週３日行っている。②毎年12月に、学部３年生及び修士課程１年生を対象に「就職ガイダンス」を開催し、教員採用試験に向けての準備教育を行っている。③毎年４～５月にかけて、教育学部同窓会と教育学部の共催事業として「教採自主講座」を正課外に実施している。

社会からの要請については、教育実習、養護実習の協力校実習の前後に岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、実習校の校長等と協議会を開催し、教育実習並びに教員養成に関する情報交換を行っている４年次に導入した学校での長期にわたる実践的経験を積む「学校教員インターンシップ」が、教育委員会や学校現場等から高く評価された。その成果に基づき、平成20年度からは他大学も含めた岡山県教育委員会「教師への道」インターンシップ事業が取り込まれる等の波及成果があった。その他課外活動として「学校支援ボランティア」を２年次、３年次に実施し、学校現場から高く評価されている。

なお、岡山大学教育学部同窓会役員とは、年１回定期的に会談しており、平成18年度の教員養成への特化に強い賛同があった。

**(２) 分析項目の水準及びその判断理由**

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

カリキュラムの継続的な点検・評価のもとで、常に教育内容の改善を行うとともに、学生からの要請に誠実に対応している。教育学部専門科目において授業評価は平均4.0以上の高い水準を推移している。

また、第３回学生生活実態調査（平成13年度実施）で授業への満足度が「満足」と「やや満足」を合わせて48.4%であったが、第４回学生生活実態調査（平成19年度実施）の教育への満足度では「満足」と「ある程度満足」を合わせると54%であり、授業への満足度

は向上している。

社会からの要請については、岡山県教育委員会、学校現場、岡山大学教育学部同窓会等と定期的に情報交換している。

## 分析項目Ⅲ 教育方法

### (1) 観点ごとの分析

#### 観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

本学部では、①学習指導力、②生徒指導力、③コーディネート力、④マネジメント力の4つの力の育成を、大学での授業と学校教育現場での実践との有機的連関のもとで展開するために、カリキュラムの中核に1年次から4年次にわたる教育現場での体験・実習活動を位置付けている。平成15年度からは、学校での長期にわたる実践的経験を積む「学校教員インターンシップ」を導入している。また、学校現場や他の機関との連携による教育実践力の育成を意図した「プロジェクト科目」を平成16年度から新たに設定し、具体的なプログラムの企画・立案から実施、評価までを体験できるようにした。授業では、総合演習に代表されるように演習形式を取り入れた授業を導入し、学生の主体性を生かすとともに、課題解決能力の育成を図る取り組みを積極的に取り入れている。

今日的な学習指導力の向上のために、平成18年度より「情報メディアの授業活用」を必修科目として開講した。これは単なる情報機器のスキルの獲得を到達目標とせず、デジタル教材の活用や製作を具体的に行い、模擬授業を展開していく内容である。

学部の授業においては、教員養成実地指導講師制度を活用し学部教員との共同授業で実践的、実務的な講義を実施している。平成19年度の実績は、科目数131科目、講師数120人、総授業時間数499時間である。

TAの活用は、資料Ⅱ-3-1のように年々増加し、学生へのきめ細かい指導に役立っている。

資料Ⅱ-3-1：TAの活用状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
雇用人数	51	56	56	58
時間数	1,992	2,032	2,180	2,351

(出典：庶務係資料)

#### 観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

入学時からの学生への履修指導を適切に行うために、1年次からの講座配属とともに指導教員を配置し、学生の希望に対応した履修指導を行うとともに、3年次からは卒業研究指導教員を決定し指導を実施している。

とくに、「学校教員インターンシップ」や「学校支援ボランティア」は、まさに学生の主体的な学びを保障するものであり、教育支援を求める学校教育現場に自ら赴き、そこでの体験を通して、自らの力量を高める取組として学部をあげて実施している。「学校教員インターンシップ」では、指導教員が学校現場の要望と学生の学習課題をマッチングさせることで主体的な取組を推進させるように工夫をしている。

学習環境として、IT活用による授業実施のために講義室の整備を行い、図書の本数は、毎年年間予算を決めて行っている。学生の自主学習を行う環境としては、現在学生控室、資料室等を用意している。平成20年度には、建物改修の際に一層の充実を図る予定である。

平成16年度より、シラバスをウェブサイト公開するとともに記載内容の充実を図り、学

生の主体的・計画的な学習を促す環境整備を行っている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 理論と実践の融合を図る教員養成コア・カリキュラムのもとで、教育方法にも体験的要素や主体的取組を重視した取組を行っており、学部教育が目指している「総合的な教育実践力」が学生の主体的な学びのもとで図られていると考えられる。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

**観点 学生が身に付けた学力や資質・能力**

(観点に係る状況)

平成18年度における学生の進級状況は、卒業率は86.5% (全国83.1%)，修了年限内卒業率79.9% (全国74.9%)と全国に比べて高い一方で、留年率は3.1% (全国3.6%)であり全国的と比べて低い結果であった。退学率は1.1% (全国1.1%)は全国平均と同程度であった。

教育学部は、総合教育課程を除いて所属する課程・コース等に応じた教員免許状の取得が可能である。平成18年度卒業者の場合、学校教育教員養成課程では170人の卒業者に対して521件の教員免許状が授与されている。養護教諭養成課程では32人の卒業者に対して73件の免許状が授与されている。このことは卒業要件を超えて、それぞれの専門性をさらに高める取組がなされていることを表している(資料Ⅱ-4-1)。また、学校図書館司書教諭の資格取得も141人に及んでいる。

資料Ⅱ-4-1：教員免許状取得状況

資料：教員免許取得状況

年度	課程	幼一	幼二	小一	小二	中一	中二	高一	養教一	養教二	養学一	養学二	合計	免許取得者	卒業者	平均免許取得数	
18	学校教育教員養成課程	50	2	126	2	167	4	130				37	3	521	167	170	3.1
	養護教諭養成課程					22		19	32					73	32	32	2.3
	総合教育課程	2				24		40						66	40	84	0.8
17	学校教育教員養成課程	55		122	2	167	9	135				28	5	523	160	166	3.2
	養護教諭養成課程			2		26		24	30					82	30	30	2.7
	総合教育課程				1	20		52						73	47	76	1.0
16	学校教育教員養成課程	58	3	130	1	123	5	110				23	1	454	156	158	2.9
	養護教諭養成課程	4				23		25	31					83	31	31	2.7
	総合教育課程			1		20		43						64	35	79	0.8

(出典：教務学生係資料)

**観点 学業の成果に関する学生の評価**

(観点に係る状況)

平成18年度の全学部の卒業予定者を対象に実施した「岡山大学の教育方法・内容等についての卒業生による評価」によると、教育学部卒業予定者の場合、「専門的知識・技能」を「十分獲得した」「ある程度獲得した」者の割合は83.1%、「困難対処能力」は67.6%、「協調性」は79.7%、「課題探求能力」は60.4%という結果を示しており、学部教育(講義、演習、卒業研究)の効果として高い結果を得ている。こうした能力は、教育学部の教育が目指すものであり、一定の成果を得ている証左だといえる。その一方、「外国語能力」(15.9%)や「リーダーシップ」(39.1%)などに関する獲得状況は低い傾向にあった。



## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

平成18年度における学生の進級状況は、全国平均に比べて良好であることや、教員養成課程では複数の教員免許状を取得していること、学業の成果に対する学生評価により「専門的知識・技能」、「困難対処能力」、「協調性」で高い評価を得ていることから判断した。

## 分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

## (1) 観点ごとの分析

**観点 卒業（修了）後の進路の状況**

(観点到に係る状況)

教職相談室の設置ならびに、同窓会と連携した教職自主講座の開催により、法人化後学校教育教員養成課程並びに養護教諭養成課程の教員就職率は向上し、平成18年3月卒業生では66.8%、全国第5位となった。平成17年3月卒業生以降3年間は正規採用者の割合が臨時的任用者の割合を上回っている。平成19年3月卒業生の教員就職率は若干減少したが、正規採用者は約4割である。教員就職率は、卒業年度16年度から18年度平均63.6±3.0%であり、全国国立教員養成系大学56.5±0.4%と比べ7.1ポイント高い。また正規採用者率は、卒業年度16年度から18年度平均39.1±5.1%であり、全国平均29.6±1.9%に比べると9.5ポイント高い。

一方で大学院進学率は、平成16年度卒業生では17.8%、平成17年度卒業生では13.2%、平成18年度卒業生では11.8%と減少している。

資料Ⅱ-5-1：教員養成課程就職状況

卒業年月	卒業生数	就職者数			教員就職率 (正規採用率)	大学院 進学者数
		教員	教員 以外	計		
19.3	202	123	39	162	60.9(39.6)	19
18.3	196	131	29	160	66.8(43.9)	16
17.3	190	120	32	152	63.2(33.7)	23
16.3	207	127	41	168	61.4(30.4)	17
15.3	216	132	37	169	61.1(24.1)	20
14.3	321	149	88	237	46.4(16.2)	29

(出典：教務学生係資料)

なお、総合教育課程の進路状況(資料Ⅱ-5-2)は、公務員、情報通信関係、学習支援関係企業への就職に加え、特に教育臨床コースの大学院進学が多い。

資料Ⅱ-5-2：総合教育課程進路状況

卒業年月	卒業生数	就職者数			教員 就職率	大学院 進学者数
		教員	教員 以外	計		
19.3	84	4	52	56	4.8	15
18.3	76	4	44	48	5.3	20
17.3	79	1	42	43	1.3	24
16.3	76	0	39	39	0.0	18
15.3	88	4	43	47	4.5	16
14.3	61	1	35	36	1.6	10

(出典：教務学生係資料)

**観点 関係者からの評価**

(観点に係る状況)

岡山大学教育学部出身者は岡山県教育委員会から採用後の伸びが期待できる人材として評価されており、岡山県教育委員会では教員採用試験受験者数の減少や都市部への流出を危惧している。また、岡山県下への就職率の減少については、岡山大学教育学部同窓会からも地域枠を設ける等の対策を要望されている。

**(2) 分析項目の水準及びその判断理由**

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由) 教職相談室の設置ならびに、同窓会と連携した教職自主講座の開催により、教員就職率は全国国立教員養成系大学の平均と比べ7.1ポイント高く、正規採用者率は、全国平均と比べ9.5ポイント高い。特に教員就職率並びに正規採用者の割合が臨時的任用者の割合を上回っている。また、岡山県教育委員会など関係者による評価も高いことが判断理由である。

### Ⅲ 質の向上度の判断

#### ①事例1「A0入試の導入による入学者の質の確保」（分析項目Ⅰ）

（質の向上があったと判断する取組）

平成18年度入試からA0入試を導入し、約3分の1の入学定員を、教育の場で活躍したいという意欲や姿勢並びに専門分野への関心と理解をこれまでの実績・自己推薦書・面接試験等で評価し選抜することとし、教職への熱意とリーダーシップのある人材を選抜することとした。平成19年度入試では、国立大学教員養成系の平均志願倍率が平成18年度に比べ0.5ポイント低下したにもかかわらず、本学部では平成18年度並みを維持している。また、A0入試導入前の推薦入試は3.4倍（平成17年度）であったが、A0入試の志願者倍率は3.5倍（平成18年度）、4.0倍（平成19年度）と上昇しており、教職への強い動機づけと意欲の高い学生が獲得できている。

#### ②事例2「教員養成コア・カリキュラムを中心とした教育内容の改革」（分析項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

（質の向上があったと判断する取組）

平成18年度学部改組に伴う「教員養成コア・カリキュラム」の策定は、これからの求められる教員の資質能力の向上に対応するものであり、体験的・実習的内容をコアに関連科目を配置して、「総合的な教育実践力」を育成するものである。教員の意識改革とともに学生の主体的な取り組みを推進し、常にFD活動を行い改善し続けている。

特に平成15年度から単位化している「学校教員インターンシップ」は、岡山県教育委員会や学校現場から高く評価され、その成果に基づいて平成20年度からは岡山県下の全地域で他大学も含めた「教師への道」インターンシップ事業が取り組まれるようになる等の波及成果があった。その他課外活動として「学校支援ボランティア」も取り組んでいる。

#### ③事例3「教職指導の充実と教員就職率の増加」（分析項目Ⅴ）

（質の向上があったと判断する取組）

平成15年4月から教職相談室を設置し、同窓会と連携した教職自主講座の開催など教職指導の充実を図った。教職相談室の利用状況は、平成15年度延べ856人から、その後1140人（平成16年度）、1178人（平成17年度）、1220人（平成18年度）と増加した。それに合わせて教員就職率や正規採用率が上昇し、教員就職率は全国国立教員養成系大学の平均と比べ7.1ポイント高く、正規採用者率は、全国平均と比べ9.5ポイント高い。

#### ④事例4「大学コンソーシアムによる幼稚園教員の養成」（分析項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

（質の向上があったと判断する取組）

平成11年4月に全国の教員養成系大学に先駆けて保育士養成の認可を得るとともに、これまでの成果が評価され、平成18年度文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」として採択された。その内容は、少子化が進む時代と教育現場・地域のニーズに対応できる専門的力量と実践的指導力を備えた幼稚園教員の養成を目的とし、県内の幼稚園教員養成大学コンソーシアム（地域大学間連携機構）を組み、養成教員の協働による「教員養成カリキュラムの充実」、学生に向けた「学生間交流による主体的成長の促進」及び地域・家庭に向けた「地域に密着した子育て支援推進と拠点化」に取り組んできた。岡山大学教育学部は基幹大学として、連携大学とともにFD活動や幼稚園教員の資質向上に取り組んでいる。